

5 領域のつながりを明確化した支援プログラム

法人名	合同会社 HARUKA
法人理念	誰一人取り残さない社会の実現への貢献
作成日	令和6年9月1日

事業所名	① 児童発達支援 放課後等デイサービス みらい
支援方針	「支援の仕方で子どもは変わります」をコンセプトに ABA による療育で、成功体験を増やし、自己肯定感を高める支援をする。
営業時間	午前9時～午後5時
送迎実施の有無	一部有

事業所名	② 児童発達支援 みらい Plus
支援方針	「支援の仕方で子どもは変わります」をコンセプトに ABA による早期の個別療育と小集団療育で集団生活にスムーズに移行する。
営業時間	午前9時～午後4時30分
送迎実施の有無	一部有

事業所名	③ ABA 発達支援教室 みらい Kids&Sports
支援方針	「支援の仕方で子どもは変わります」をコンセプトに ABA による療育で、成功体験を増やし、自己肯定感を高める支援をする。
営業時間	午前9時～午後5時
送迎実施の有無	一部有

事業所名	④ アフタースクールみらい伊丹野間
支援方針	「支援の仕方で子どもは変わります」をコンセプトに ABA による療育で、成功体験を増やし、自己肯定感を高める支援をする。
営業時間	午前9時～午後5時
送迎実施の有無	有

事業所名	⑤ 放課後デイサービス みらい車塚
支援方針	「支援の仕方で子どもは変わります」をコンセプトに ABA による療育で、成功体験を増やし、自己肯定感を高める支援をする。
営業時間	午後1時～午後5時
送迎実施の有無	有

事業所名	⑥ 放課後デイサービス みらい虹
支援方針	「支援の仕方で子どもは変わります」をコンセプトに成功体験を増やし、自己肯定感を高める支援をする。
営業時間	午後1時～午後5時
送迎実施の有無	有

合同会社 HARUKA

①児童発達支援・放課後等デイサービスみらい

②みらい Plus

③みらい Kids&Sports

④アフタースクールみらい伊丹野間

⑤放課後デイサービスみらい車塚

⑥放課後デイサービスみらい虹

※ 下記項目にある（ ）内の番号は、具体的な支援内容に取り組んでいる事業所。

本人支援の内容と5領域の関連性

項目	ねらい
健康・生活	健康状態の維持・改善 生活のリズムや生活習慣の形成 基本的な生活スキルの獲得
<p>具体的な支援内容</p> <ul style="list-style-type: none">● 健康状態の把握 (①②③④⑤⑥) 登所時には、保護者から健康状態の聞き取りと、検温を実施して健康状態の把握を行う。また、連絡帳に記載されている、健康欄の確認も併せて行う。子どもの障害の特性及び発達の過程等に配慮し、小さなサインから心身の異変に気づけるよう、きめ細やかな観察を行う。● 基本的な生活スキルの獲得 (①②③④⑤⑥) 身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄などの生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。● 構造化等により生活環境を整える (①②③④⑤⑥) 生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるよう環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。● 心の健康の増進 (①②③④⑤⑥) 心理士による観察、助言などを通し、本人や本人を取り巻く環境の心の健康を保持増進できるよう支援する。 <p>具体的な活動</p> <p>挨拶、トイレトレーニング、微細運動、自分の荷物の管理、指先の巧緻性を高める、個々の特性に配慮した指示、構造化を意識した部屋のレイアウト・掲示方法、視覚優位や聴覚優位などの特性に合った指示、TEACCH プログラム、チェイニング、目と手の協応運動、トークンエコノミー法、対人関係における技能習得、ブレインジム、絵本の読み聞かせ、心理士による支援、褒めて自己肯定感を高める等。</p>	

項目	ねらい
運動・感覚	姿勢と運動・動作の向上 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 保有する感覚の総合的な活用
具体的な支援内容 <ul style="list-style-type: none"> ● 姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 (②③④) 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や運動・動作の改善及び習得、柔軟性の向上、筋力の維持・強化を図る。また、協調運動により、2つ以上の協応動作の向上を図る。 ● 保有する感覚の活用 (①) 保有する視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用できるよう、遊びなどを通して支援する。 ● 感覚の補助及び代行手段の活用、弱視児のための療育 (①) 保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう眼鏡や補聴器などの各種の補助機器を活用できるよう支援する。 具体的な活動 <p>ボールを使った協調運動、同時に2つの動きをするトレーニング、小学校の体育の授業に繋がる運動、感覚遊び、五感を十分に活用した遊び、ビジョントレーニング、リトミック、微細運動、視覚補助具を活用した学習、なわとび、大縄、けん玉、ボルダリング、トランポリン、ポッチャ、バスケットボール、的当て、リズム体操、サーキットトレーニング、鉄棒、プログラミング、ブレインジム、感覚統合運動、コーディネーショントレーニング等</p>	
項目	ねらい
認知・行動	認知の発達と行動の習得 空間・時間、数等の概念形成の習得 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得
具体的な支援内容 <ul style="list-style-type: none"> ● 認知の発達と行動の習得 (①②③④⑤⑥) 障がい特性に応じた視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。 ● 空間・時間、数等の概念形成の習慣 (①②③④⑤⑥) 認知や行動の手掛かりとなるように場所の構造化、時間の構造化により、空間・時間等の概念の形成を図り、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるように支援する。また、数量、大小、色等の習得、形の大きさ、重さ、色の違い等の習得のための支援を行う。(全事業所) ● 認知の偏りへの対応 (①②③④⑤⑥) 認知の特性を踏まえ、絵カードやスケジュール表などの視覚から入ってくる情報を適切に処理できるように支援する。認知の偏り等の個々の特性に配慮して、こだわり等に対する支援を行う。 具体的な活動 <p>一日の流れを可視化して伝える(時間の構造化、TEACCHプログラム)、DTT、肯定的な声掛け、色タッチ、大きさの分別、日付や天気の把握、数の認知形成、タイムテーブルなどの時間の自己管理、行動の切り替え、ブロック遊びによる空間把握の認知形成、小集団でのゲームでの行動形成・情報収集・ルール把握、物の認知、漢字ビンゴ、ゲーム要素を取り入れた学習、トークンエコノミー法、手順書を用いた学習、3ヒントゲーム、個々の認知特性に合った支援、ワーキングメモリを高める課題や遊び、複数の動きを同時に行う遊び、プログラミング等。</p>	

項目	ねらい
言語・ コミュニケーション	言語の形成と活用 言語の受容及び表出 コミュニケーションの基礎的能力の向上 コミュニケーション手段の選択と活用
<p>具体的な支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 言語の形成と活用 (①②③④) ABAの個別療育により、具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。 ● 受容言語と表出言語の支援 (①②③④) ABAの個別療育により、話し言葉や各種の文字・記号を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出する支援を行う。 ● 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 (①②③④⑤⑥) 集団活動の場面で、ソーシャルスキルトレーニング(SST)を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 ● 気持ちの言語化、感情理解 (①②③④⑤⑥) 心理士の観察や関わりにより、自分や他者の気持ちについて考え、言語化できるよう支援を行う。 <p>具体的な活動</p> <p>個々の特性に応じた読み書き学習、自己紹介、ルールを可視化して伝える、PECS、視覚補助器具を使っての学習、絵本の読み聞かせ、名詞や動詞の習得、モデリング、吹き戻し、言葉あそび、トークンエコノミー法、気持ちの代弁・言語化、心理士による支援等。</p>	

項目	ねらい
人間関係 社会性	他者との関わり（人間関係）の形成 自己の理解と行動の調整 仲間づくりと集団への参加
<p>具体的な支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ラポールの形成（①②③④⑤⑥） 人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。 ● 模倣行動の支援（②） 小集団療育活動の「観る、聞く、待つ、真似る」のコンセプトどおりに、人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。 ● 感覚運動遊びから象徴遊びへの支援（①②③④） 感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊びなどの象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 ● 一人遊びから協同遊びへの支援（②④） 周囲に子どもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守ったりして遊ぶ協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 ● 自己の理解とコントロールのための支援（①②③④⑤⑥） 大人を介在して、自分にできること、自分には難しいことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるように支援する。 心理士の観察・助言を通し、気持ちや感情の理解を促し、情緒の安定や自己コントロールを身につけられるよう支援します。 ● 集団への参加への支援（①②③④⑤⑥） 集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるように支援する。 <p>具体的な活動</p> <p>アタッチメント形成、ごっこ遊び、見立て遊び、つもり遊び、役割分担のある遊び、ルールのある遊び、カード遊び、話し合い、SST、イベント、リフレイミング、勝ち負けのあるゲーム、プログラミング、テーマがある話し合い、心理士による支援、ロールプレイング、ミラリング、人と会話をする時のルールやマナーの理解、自己理解の習得、ソーシャルスキルゲーム等。</p>	

<p>家族支援</p>	<p>家族支援は生活全体を支える重要な要素であり、保護者の不安や疑問に対応するため、定期的な相談窓口の設置やカウンセリングを実施し、心身の負担軽減と情報提供を行っている。さらに、保護者向けセミナーやワークショップを開催し、子どもの発達支援や福祉制度の活用に関する最新情報を提供している。また、セミナー内で保護者同士の交流会を実施し、経験や知識を共有する機会を設けることで、安心して子育てできる環境を整え、自立と社会参加を支援する。</p> <p>具体的方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者面談を半年毎に1回おこない、事業所と家庭の情報交換と情報共有を行う。 ・保護者、きょうだい児への家族支援を推進し、家族全体のウェルビーイングの向上を図る。 ・進路や移行先の選択についての相談援助を行う。 ・家族に対して養育力向上の支援等を行う。 ・保護者対象のペアレント・トレーニング、アンガーマネジメント講座の場を随時提供する。 ・欠席時には、状況を確認し、連絡調整や相談援助を行う。 ・災害や緊急時などの通所が困難な時には、職員が音声通話などでご家庭への相談支援を行う。 ・連絡帳を通して、事業所と家庭での様子の情報共有をする。 ・保護者の同意のもと、保育所や学校等とこどもの状況についての情報交換や情報共有を行う。
<p>移行支援</p>	<p>幼児・児童が次のステップへ円滑に移行できるよう、発達状況や生活環境に応じた個別支援計画を策定し、学習・生活・コミュニケーションなど多方面にわたる具体的な目標を設定する。移行のタイミングに応じて、進学や福祉サービスの活用方法など必要な情報を提供し、面談を通じて不安を軽減する支援体制を整備する。</p>
<p>地域支援 地域連携</p>	<p>幼児・児童が地域社会の一員として安心して生活できるよう、専門機関や多様な分野の専門家と連携し、支援の質を向上させる。これにより、切れ目のないサポート体制を構築し、社会全体で子どもたちを支える仕組みを強化する。</p>
<p>職員の質の向上</p>	<p>職員の資質向上は、質の高い支援を提供するための基盤であり、支援技術・心理学・コミュニケーション手法などをテーマに定期研修を実施している。内部講師や外部専門家による研修を通じて、理論と実践の両面からスキルアップを図り、ケーススタディを活用して成功事例や課題を共有することで、実践力と問題解決能力を高める。また、職員が外部研修やセミナーに参加できる体制を整え、最新の知見や技術を組織全体に還元する仕組みを導入している。さらに、経験豊富な先輩職員による新人指導やフォローアップを行い、個々のキャリアに応じた支援を提供しながら、職員のモチベーション向上と自己研鑽を促進する。</p>
<p>主な行事等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・季節行事（夏祭り・ハロウィン・クリスマス会・お正月遊び・節分祭り等） ・防災訓練（火災・震災・水害） ・保護者行事（ペアレント・トレーニング アンガーマネジメント講習） ・虐待防止研修・蘇生法研修・ハラスメント研修等 職員向け定期研修 ・ABA 上級講師による定期的なトレーニング研修等 職員向け実践研修